

各関係機関長 様

農業技術防除センター所長

タマネギの生育早進に伴うべと病防除対策の徹底について

2月に入り、タマネギべと病の一次感染株（越年罹病株）の発生が多い圃場が散見されています。また、暖冬の影響で、べと病の二次伝染が平年より早く始まる可能性があり、特に植え付けが早く、一次感染株が発生した圃場では、発病株の抜取りに加えて、緊急的な対応として薬剤による臨機防除が必要です。

つきましては、下記事項を参考に防除対策を徹底するよう、生産者への指導をお願いします。

記

1．発生概況

- (1)2月6～7日に当センターにおいて、県内28圃場（マルチ栽培14圃場、無マルチ栽培14圃場）を調査した結果、一次感染株の発生株率は0.025%（発生圃場率14.3%）であり、平年並（過去6か年：0.036%）で、前年（0.0013%）よりやや多かった。
- (2)このうち、マルチ圃場の発生株率は0.004%（発生圃場率7.1%）、無マルチ圃場は0.046%（発生圃場率21.4%）であった（写真1）。また、一部で、発生が多い圃場（発生株率0.3～0.4%）が認められた。

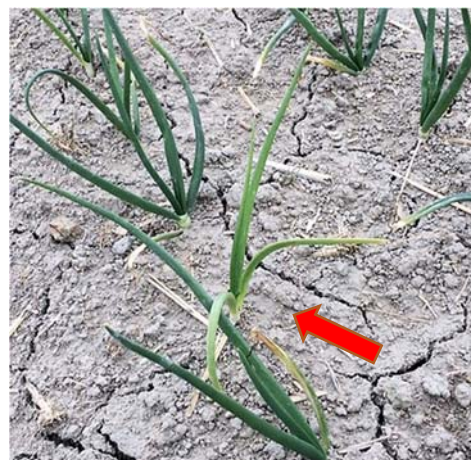


写真1 現地圃場で発生した一次感染株（2020年2月7日撮影）

2．気象概況

12～1月の気温が平年より高く推移したため（12月の日平均気温：平年比+1.7、同1月：平年比+3.3）、タマネギの生育が進んでいる。さらに、福岡管区气象台が2月6日に発表した北部九州地方の予報では、向こう1カ月の気温が高い確率は80%と予想されている。

これらのことから、植え付けの早い作型を中心に、今後さらにタマネギの生育が進み、平年より早く鱗茎肥大期を迎えると考えられる。タマネギは、鱗茎肥大期以降にべと病に感染しやすくなるため、二次伝染の開始時期が早まる可能性があり、一次感染株の発生圃場では、特に注意が必要である。

3. 防除対策

(1) 一次感染株の抜取り徹底

圃場の見回りをこまめに行い、一次感染株を見つけたら、直ちに抜取り、圃場外に持ち出して適切に処分する。

(2) 早生タマネギ（マルチ栽培あるいは植え付けの早い無マルチ栽培）での薬剤防除

一次感染株の発生がみられる圃場

早期から二次伝染が起こる可能性があるため、緊急的な対応として、2月中旬に臨機防除剤としてフロンスайд SC（1000倍）を散布する（図1）。

一次感染株の発生が無い圃場

薬剤防除は、当初の計画どおり2月下旬から開始する。なお、防除体系（例）を図1に示すが、具体的な防除暦については各地域で作成されたものを参照する。

(3) 中晩生タマネギでの薬剤防除

薬剤防除は、当初の計画どおり2月下旬から開始する。

(4) 排水対策の徹底

圃場内に雨水が停滞すると、本病が発生しやすくなるので、溝切り等の排水対策を徹底する。

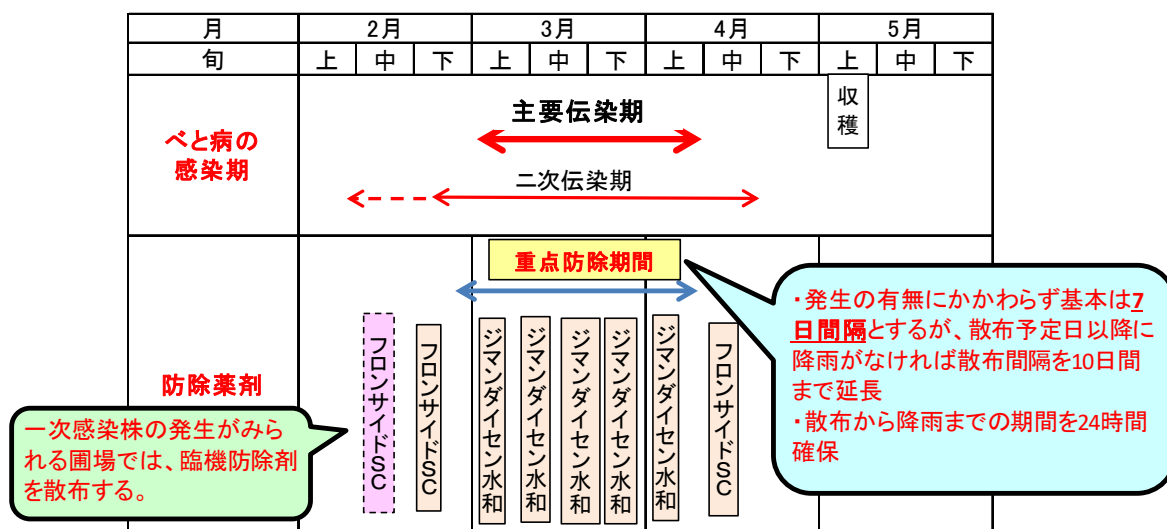


図1 早生タマネギにおけるべと病の二次伝染時期と本病を主体とした防除体系（例）
 （定植日11月中・下旬、収穫日5月5～10日を想定）

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病虫害防除部
 〒840 2205 佐賀市川副町南里 1088
 TEL (0952)45 8153